

静岡県中央新幹線環境保全連絡会議
第19回地質構造・水資源部会専門部会

2025年3月11日

静岡県

今後の主な対話項目【水資源編】

※赤字:新規対話項目 青字:これまでの対話項目
 青字下線:今回、引続きの対話

主な対話項目28項目中、水資源関連は全6項目

区分	主な対話項目
1 静岡県内の山梨工区工事中の県外流出量の全量戻し	<p><u>(1) 田代ダム取水抑制案について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>実際の運用サイクルやオペレーションの詳細(県外流出量の測定方法を含む)</u> ・<u>冬期に発電所を停止する場合の対応(東京電力RPとの協議結果)</u>
2 リスク管理	<p><u>(1) リスク管理</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>リスク管理の手法(リスクマトリクス、リスクマップを使用)</u> ・<u>予測の不確実性を低減するため、調査結果(ボーリングや湧水の化学分析結果等)を踏まえたリスク評価の検証と見直し</u> <p>(2) 田代ダム取水抑制案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取水抑制できない状態が継続する場合の対応 ・突発湧水など不測の事態への対応(連絡・協議体制など) ・取水抑制するための水量が不足する不確実性への対応(湧水期を避けた施工の検討) <p>(3) トンネル湧水をポンプアップし、導水路トンネルから大井川に戻す方策について、突発湧水等のリスクへの対応</p> <p>(4) 山梨県内の高速長尺先進ボーリング、先進坑、本坑の掘削により健全な水循環への影響が懸念されることへの対応について、科学的な説明と本県等との合意(高速長尺先進ボーリングが、県境から山梨県側へ約300mの地点に達する前)※対話完了</p>
3 モニタリング	<p><u>(1) 2(1)を踏まえた、具体的なモニタリング計画(モニタリング項目、実施箇所、実施頻度、監視体制、公表時期、理解しやすいデータ公表の手法等)</u></p>

本日の対話内容

水資源に係る「今後の主な対話項目」6項目のうち、以下の5項目について対話を進める。(新規:2項目、継続3項目)

1 静岡県内の山梨工区工事中の県外流出量の全量戻し

【実際の運用サイクルやオペレーションの詳細について確認が必要】

対話項目1(1) 田代ダム取水抑制案について(継続)

2 リスク管理

【突発湧水等の不測の事態や予測の不確実性に対応するためのリスク管理について確認が必要】

対話項目2(1) リスク管理(継続)

対話項目2(2) 田代ダム取水抑制案について(新規)

対話項目2(3) トンネル湧水をポンプアップし、導水路トンネルから大井川に戻す方策について、突発湧水等へのリスクへの対応(新規)

3 モニタリング

【項目、実施箇所、実施頻度、監視体制、公表時期、データ公表の手法等の確認が必要】

対話項目3(1) リスク管理を踏まえた、具体的なモニタリング計画(継続)

本日の対話の進め方

- まず、田代ダム取水抑制案に関する項目について対話を行う。
【対話項目1(1)、2(1)、2(2)】
- 次に、トンネル湧水をポンプアップし、導水路トンネルから大井川に戻す方策に関する項目について対話を行う。
【対話項目2(1)、2(3)】
- 続いて、山梨県側からの掘削(先進坑、高速長尺先進ボーリング)に伴うリスク管理について対話を行う。
【対話項目2(1)】
- 最後にモニタリングについて対話を行う。
【対話項目3(1)】

1 田代ダム取水抑制案

【対話項目1(1)】 田代ダム取水抑制案について

- ・ 実際の運用サイクルやオペレーションの詳細(県外流出量の測定方法を含む)

【対話項目の背景】

- 令和5年10月 JR東海が田代ダム取水抑制案の実施案を策定
 - ・ 実施案では、実際の運用サイクルやオペレーションの詳細は、今後具体化すると説明
- 令和5年11月 実施案に対する地質構造・水資源専門部会意見
 - ・ スキームとしては妥当
 - ・ 運用サイクルやオペレーションの詳細(県外流出量の測定方法を含む)は、今後、専門部会で対話すること。

【本日の対話内容】

- JR東海が実施案において、今後具体化すると説明していた運用サイクルやオペレーションの詳細について検討したので、内容を確認する。

1 田代ダム取水抑制案

【対話項目2(1)】リスク管理

- ・ リスク管理の手法(リスクマトリクス、リスクマップを使用)

【対話項目2(2)】田代ダム取水抑制案について

- ・ 取水抑制できない状態が継続する場合の対応
- ・ 突発湧水など不測の事態への対応(連絡・協議体制など)
- ・ 取水抑制するための水量が不足する不確実性への対応(渇水期を避けた施工の検討)

【対話項目の背景】

- 令和元年6月 中央新幹線建設工事における大井川水系の水資源の確保及び水質の保全等に関する中間意見書 (県⇒JR東海)
 - ・ リスクマトリクス、リスクマップのような可視化した管理手法を用いて、県民が工事のリスクと対策を容易に理解できるよう説明することが必要
- 令和5年11月 実施案に対する地質構造・水資源専門部会意見
 - ・ 上記【対話項目2(2)】の事項については、専門部会で対話すること。

【本日の対話内容】

- JR東海が、田代ダム取水抑制案におけるリスク管理について、リスクマトリクス、リスクマップに整理し、対応を検討したので、内容を確認する。
- JR東海が、令和5年11月の専門部会意見において対話を求めた項目について、対応を検討したので、内容を確認する。

2 トンネル湧水をポンプアップし、導水路トンネルから大井川に戻す方策

【対話項目2(1)】リスク管理

- ・ リスク管理の手法(リスクマトリクス、リスクマップを使用)

【対話項目2(3)】トンネル湧水をポンプアップし、導水路トンネルから大井川に戻す方策について、突発湧水等のリスクへの対応

【対話項目の背景】

- 令和元年6月 中央新幹線建設工事における大井川水系の水資源の確保及び水質の保全等に関する中間意見書
 - ・ リスクマトリクス、リスクマップのような可視化した管理手法を用いて、県民が工事のリスクと対策を容易に理解できるよう説明することが必要
- 令和3年12月「大井川水資源問題に関する中間報告」(国有識者会議)
 - ・ トンネル掘削にあたっては、突発湧水等の不測の事態が生じる可能性があるというリスクを認識した上で、事業を推進するにあたってはリスク対策を適切に実施すべきである。

【本日の対話内容】

- JR東海が、トンネル湧水をポンプアップし、導水路トンネルから大井川に戻す方策におけるリスク管理について、リスクマトリクス、リスクマップに整理し、対応を検討したので、内容を確認する。

3 山梨県側からの掘削に伴うリスク管理

【対話項目2(1)】リスク管理

- ・ 予測の不確実性を低減するため、調査結果(ボーリングや湧水の化学分析結果等)を踏まえたリスク評価の検証と見直し

【対話項目の背景】

○ 高速長尺先進ボーリングの終了

- ・ 令和6年12月、JR東海は、山梨県内から進めていた高速長尺先進ボーリングを、県境を越えて静岡県内10m地点で一旦終了した。

○ 令和6年12月 第18回地質構造・水資源専門部会(JR東海説明)

- ・ 令和7年1月以降、高速長尺先進ボーリングにより、地質や湧水の状況が確認できた区間において、先進坑の掘削を再開し、県境付近手前まで掘削を進める計画である。
- ・ 県境から山梨県側に300m以内の区間の掘削を進めるにあたり、当該区間のリスク管理について、先進坑が県境から山梨県側に300mの地点に達するまでに対話を実施し、合意する。

3 山梨県側からの掘削に伴うリスク管理

【対話項目の背景】

- 令和6年12月 第18回地質構造・水資源専門部会(JR東海説明)
 - ・ 先進坑の掘削を県境付近手前まで進めた後、県境を越えて高速長尺先進ボーリングを実施する計画である。リスク管理については、別途静岡県と対話する。

【本日の対話内容】

- JR東海が、高速長尺先進ボーリングの結果を踏まえて、県境から山梨県側に300m以内の区間における先進坑のリスク管理について検討したので、内容を確認する。
- JR東海が、先進坑から県境を越えて削孔する高速長尺先進ボーリングのリスク管理について検討したので、内容を確認する。

4 モニタリング

【対話項目3(1)】

- ・ 対話項目2(1)を踏まえた、具体的なモニタリング計画(モニタリング項目、実施箇所、実施頻度、監視体制、公表時期、理解しやすいデータ公表の手法等)

【対話項目の背景】

- 令和4年4月 第7回地質構造・水資源専門部会(委員意見)
 - ・ 流域市町の地域住民が重要視するリスクとモニタリング対応の関係を、工事前、工事中、工事完了後の段階を追って、分かりやすく対応がしっかりと取れるような形で説明すること。

【本日の対話内容】

- JR東海が、具体的なモニタリング計画について検討したので、内容を確認する。